

# 研究員 の眼

## バレンタインジャンボの狙い目 —攫千金と超高額当せん、どちらを狙う?

保険研究部 主席研究員 篠原 拓也  
(03)3512-1823 tshino@nli-research.co.jp

今年もバレンタインデーの時期がやってきた。

そもそもバレンタインデーとはどういう日なのか。少し歴史を見てみると、いまから1700年以上前のローマ帝国時代にさかのぼる。当時、ローマでは、皇帝クラウディウス2世が「若者が戦争へ行きながら残るのは、故郷に残る恋人と離れたくないため」と、兵士の士気の低下を恐れて、結婚を禁じていた。キリスト教司祭ウァレンティヌスは、それを不憫に思い、内密に兵士の結婚式を行っていた。

そのことを知った皇帝はウァレンティヌスを問いただして罪を認めさせ、二度とそのようなことがないように命じた。しかし、ウァレンティヌスはその命に背き、処刑されてしまった。その処刑された日が、西暦269年2月14日だった。ウァレンティヌスは「聖バレンタイン」という聖人として、広く知られるようになったという。

14世紀頃から、ローマでは「聖バレンタイン」の命日である2月14日をバレンタインデーとして、恋愛に関係するイベントが行われるようになった。それが、徐々に世界に広がっていった。

日本では、女性から男性にチョコレートを贈る風習が続いてきた。これは、1935年2月に、洋菓子メーカーのモロゾフ(神戸市)が英字新聞に「バレンタインにモロゾフのチョコレートを贈りましょう」との広告を出したことが始まりとされる。主に、日本に住む外国人向けの宣伝だったと考えられる。

日本人向けには、戦後の1950年代から、お菓子のメーカーや、デパートなどを巻き込んで、バレンタイン商戦がスタートする。それ以来、約70年に渡り、毎年2月に、女性から男性へチョコレートを贈るという風習が、日本独自の文化として続いている。

近年は、ジェンダーレスの観点から、女性から男性へチョコを贈るという行為はやめたほうがよい、という意見も多くなっているようだ。職場などで配られてきた「義理チョコ」の見直し、男性から女性にチョコを贈る「逆バレンタイン」、仕事や勉強などに頑張った自分への「ご褒美チョコ」など、バレンタインデーをめぐる多様な動きが出てきている。

そんななかの1つになるかもしれないのが、「バレンタインジャンボ宝くじ」だ。今年は、2月14日に発売開始となる。例年、2月初め頃に発売を開始していたが、今年はバレンタインデーに合わせた形となっている。ジャンボ宝くじも、バレンタイン商戦の1つに加わろうということかもしれない。それでは、今年のバレンタインジャンボ宝くじの内容を見ていこう。

## ◇ バレンタインジャンボは、当せん金 100 万円以上の高額当せんに重点を移した

最高当せん金は1等前後賞合わせて3億円と高額だ。

バレンタインジャンボ宝くじには、年末ジャンボ宝くじと同様「ジャンボ」と「ジャンボミニ」の2つがある。「1等前後賞合わせて3億円」のうたい文句で販売されるのは、バレンタインジャンボだ。バレンタインジャンボミニの当せん金の最高額は、1等前後賞合わせて3000万円となっている。

それでは、まず、バレンタインジャンボについて詳しく見てみよう。当せん金、当せん確率、平均受取額の主な変更点をまとめると、次のとおりとなる。

### (バレンタインジャンボの主な変更点)

- (1) 当せん金 1000 万円の 2 等の当せん本数が、昨年の 1 ユニット (1000 万枚) あたり 3 本から、今年は 10 本へと 3.3 倍に増加
- (2) 当せん金 100 万円の 3 等の当せん本数が、昨年の 1 ユニットあたり 60 本から、今年は 300 本へと 5 倍に増加
- (3) 当せん金 1 万円の 5 等の当せん本数が、昨年の 1 ユニットあたり 4 万本から、今年は 1 万本へと 4 分の 1 に減少
- (4) その結果、くじ 1 枚 300 円に対する当せん金の平均受取額は、144.99 円から 145.99 円へと 1 円増加

## バレンタインジャンボ

(円)

	当せん金	当せん確率	平均受取額
1等	200,000,000	0.00001%	20
1等の前後賞	50,000,000	0.00002%	10
1等の組違い賞	100,000	0.00099%	0.99
2等	10,000,000	0.0001%	10
3等	1,000,000	0.003%	30
4等	50,000	0.01%	5
5等	10,000	0.1%	10
6等	3,000	1%	30
7等	300	10%	30
合計			145.99

今年の宝くじでは、(1)と(2)で、当せん金 1000 万円の 2 等と当せん金 100 万円の 3 等の当せん本数が大幅に増やされている。一方、(3)で、当せん金 1 万円の 5 等の本数が減らされている。これらの増減により、組み替えが行われたことになる。その組み換え平均受取額で見ると、増加分が減少分を上回っており、(4)で平均受取額が 1 円増加する形となっている。

この、当せん金 1000 万円の 2 等と当せん金 100 万円の 3 等の当せん本数が大幅に増やされる一方、当せん金 1 万円の 5 等の本数が減らされるという組み換えは、昨年の年末ジャンボと同様の動きだ。今回のバレンタインジャンボは、当せん金 100 万円以上の高額当せんに重点を移したといえるだろう。

それでは、100 万円以上の当せん金を当てるには、どれだけくじを買ったらよいか？ 計算してみると、100 万円以上の賞金が当たる確率は 0.00313%なので、この数字の逆数をとることにより、平均的には、3 万 1949 枚のくじを買うと 100 万円以上の賞が 1 本当せんするという結果になる。

これだけの枚数のくじを買うと、100 万円未満の複数の当せんも期待できる。平均的には、4 等 3 本、5 等 31 本、6 等 319 本、7 等 3194 本の当せんが期待できる。こうした 4 等から 7 等の当せんにより、平均的に、当せん金 237 万 5200 円が受け取れる。100 万円以上の賞の当せんと合わせて、337 万 5200 円以上の当せん金の受け取りが期待できることになる。

ただし、1 枚 300 円のくじを 3 万 1949 枚買うためには、958 万 4700 円が必要となる。たとえ 3 等 100 万円が 1 本当せんして 337 万 5200 円の当せん金を受け取ったとしても、600 万円以上もの持出しとなってしまふ。大量購入を考える場合には、購入額と当せん金の受取額の関係に十分注意しておく必要があるといえるだろう。

このように、いろいろみていくと、バレンタインジャンボは、「3 億円の一攫千金の狙いを中心に据えつつ、当せん金 100 万円以上の高額当せんも狙いたい」という一攫千金狙いのくじと位置づけられそう。

## ◇ ミニは、ジャンボよりも 1 等の当せん確率が 10 倍大きい

つづいて、バレンタインジャンボミニについて、みてみよう。

ジャンボと違って、ジャンボミニの当せん金の最高額は、1 等前後賞合わせて 3000 万円にとどまる。

バレンタインジャンボミニに対しても、昨年のものでいくつかの変更が行われている。主な変更点をまとめると、次のとおりとなる。

(バレンタインジャンボミニの主な変更点)

- (1) 当せん金 2000 万円の 1 等の当せん本数が、昨年の 1 ユニット (1000 万枚) あたり 5 本から、今年 は 10 本へと倍増
  - (2) それとともに、当せん金 500 万円の 1 等の前後賞の当せん本数も、昨年の 1 ユニットあたり 10 本から、今年 は 20 本へと倍増
  - (3) 当せん金 100 万円の 2 等の当せん本数が、昨年の 1 ユニットあたり 100 本から、今年 は 300 本へと 3 倍に増加
  - (4) 当せん金 5 万円の 3 等の当せん本数が、昨年の 1 ユニットあたり 2000 本から、今年 は 1000 本へと半減
  - (5) 当せん金 1 万円の 4 等の当せん本数が、昨年の 1 ユニットあたり 4 万本から、今年 は 1 万本へと 4 分の 1 に減少
- (くじ 1 枚 300 円に対する当せん金の平均受取額は、135 円のまま変わらず)

バレンタインジャンボミニ

(円)

	当せん金	当せん確率	平均受取額
1等	20,000,000	0.0001%	20
1等の前後賞	5,000,000	0.0002%	10
2等	1,000,000	0.003%	30
3等	50,000	0.01%	5
4等	10,000	0.1%	10
5等	3,000	1%	30
6等	300	10%	30
合計			135

今年の宝くじでは、(1) と (2) で、1 等前後賞合わせて 3000 万円の当せん本数が倍増している。また、(3) で、当せん金 100 万円の 2 等の本数が 3 倍増となっている。一方、(4) で、当せん金 5 万円の 3 等の本数が半減。(5) で、当せん金 1 万円の 4 等の本数が 4 分の 1 に減少となっている。これらの増減を通じて、組み替えが行われたことになる。つまり、100 万円以上の高額当せんにシフトしたわけだ。

バレンタインジャンボミニの表を、バレンタインジャンボの表と比較してみると、当せん金 100 万円以下の当せん確率は、当せん金ごとに同じであることがわかる。

それでは、違いはどこにあるのか？ バレンタインジャンボミニは、バレンタインジャンボと比べて、1 等の当せん確率が 10 倍大きい点が挙げられる。つまり、バレンタインジャンボミニは、「3000 万円の超高額当せんを中心に据えつつ、当せん金 100 万円以上の高額当せんも狙いたい」という高額当せん狙いのくじと位置づけられるだろう。

◇ 3 億円の一攫千金か、3000 万円の高額当せんか

以上のように、今回のバレンタインジャンボとバレンタインジャンボミニには、1等の当せん確率に違いがある。

とにかく、「3億円の一攫千金を狙いたい」ということならば、バレンタインジャンボがおすすめとなる。1等が当たる確率は1000万枚に1本で、年末ジャンボの場合（2000万枚に1本）に比べて2倍に設定されている。

一方、「3000万円の超高額当せんを目指す」ということならば、バレンタインジャンボミニを買うのがよいだろう。

宝くじの醍醐味である一攫千金を狙って、バレンタインジャンボを買うか。それとも、超高額当せんを目指して、バレンタインジャンボミニを買うか。どちらも買うとしたら、それぞれの枚数は何枚ずつにするか――。

今年のバレンタインジャンボ宝くじは、2月14日から3月15日まで発売され、抽せん日は3月22日とされている。発売期間は、1ヵ月以上もある。

今回の宝くじは、バレンタインデーに発売開始だ。誰かへのプレゼントにするか、自分への「ご褒美宝くじ」にするか、用途も含めて考えながら、くじを買うのもよいと思われるが、いかがだろうか。

(参考資料)

「宝くじ公式サイト」(全国自治宝くじ事務協議会のウェブサイト)

「バレンタインデーの起源とは？ 海外と異なる日本のバレンタイン事情」(ダンデライオン・チョコレート ブログ, 2021年1月18日)

「日本のバレンタインデーはモロゾフから始まりました」(モロゾフ株式会社ホームページ)

「さらば義理チョコ ジェンダーレスが変えるバレンタインの愛情表現」藤田太郎 記者著(日経ビジネス, 2023年2月14日)